

[09_02]九州大学大型計算機センター広報表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/1468048>

出版情報：九州大学大型計算機センター広報. 9 (2), 1976-06-01. 九州大学大型計算機センター
バージョン：
権利関係：



センター長辞任に際して

高 田 勝*

昭和47年以来、2期にわたる任を終えるにあたり御挨拶を申し上げます。

この4年を省みますと、各方面の御好意に甘えて大過なく過させて戴いたという一語に尽きるようです。大過というのは己れはなかなか気がつきませんし、すぐ露見もし難いことから、あるいは後程気のつくことになるかも知れません。とにかく非才の身で何とか任を終えることが出来たのは、センター運営に当って運営委員会や各種専門委員会委員各位の適切な御指導御援助を得たこと、利用者各位が忍耐と寛容の精神を以って自分のセンターとして愛用されたこと、そしてセンター内教職員各位の一致した和と努力に負うことと深く感謝しております。

ここに利用者各位の忍耐と寛容の精神と申し上げたことに関し、お詫びを申し上げるとともに現状を述べさせて戴きます。この繁忙期には需要に応じきれぬ処理能力のため、ジョブ返却が非常に遅くなり多大の御不便をおかけしました。Aジョブでも10時過ぎに出すと夜か翌日にしかもどりません。C、Dジョブに至っては数日かかることが多かったと思います。処理能率の上からソフト改良の余地もまだあるとは言え、何といたっても第七地区の守備範囲の広いわりにはレンタル予算規模の少ないことにあります。第三、第五地区のそれは我々の3倍にもなります。

因みに東大センターニュースによりますと、この1月の繁忙期でも我々のAジョブ程度で3分、全ジョブ平均でも50分位で返却されています。同ニュース7巻5号(昭50,5)によれば、ある利用者は1ヶ月で何と884件処理し、またある利用者は1人で1ヶ月に13時間50分ものCPUタイムを使うことが出来ています。

都会の人は忙しいから数分で処理してもらえ、我々田舎にいる者は1日かかってよいものでしょうか。このような研究環境の格差があつてよいものでしょうか。

我々は何も計算機を湯水の如く使いたいものではありません。1日に多くて2~3回処理してもらえればよいと思うのです。あまりに計算機に頼りすぎて思考力の退化を来たしてはなりませんから。しかし需要に見合うシステム増強の予算は残念ながら51年度も認められませんでした。この実現の努力は新センター長にお願いすることになりましたが、このために各方面の一層の御理解と御協力をお願いしてやみません。

御挨拶とともにセンターの窮状を訴えましたことをお許し下さい。

最後に今一度、御指導御援助をいただいた各位に厚く御礼を申し上げますとともに、新センター長の下、センターの一層の御発展を祈念致します。

有難うございました。

* 前大型計算機センター長、工学部教授